

滋賀県立大学春期公開講座

平成23年度（5回シリーズ）

県立大学で 「人間学」を学ぶ

5/14

13:30~15:20

認知症のとらえ方・
対応の仕方

人間看護学部 森 敏 教授

5/21

13:30~15:20

自然の色と染め

人間文化学部 道明 美保子 教授

5/28

13:30~15:20

ベルナノスの著作を通して見た
ヨーロッパとキリスト教

国際教育センター 長島 律子 准教授

6/4

13:30~15:20

電子社会に生きる

工学部 柳澤 淳一 教授

6/11

13:30~15:20

琵琶湖および琵琶湖流域に
飛来する越境大気汚染物質

環境科学部 永淵 修 教授

- 場 所/滋賀県立大学 A2-202講義室
- 受講料/1回につき500円
- 定 員/300人(先着順)
- 対 象/高校生以上の方はどなたでも
- 申し込み方法/ハガキ・TEL・FAX・E-mailで受け付けます。住所・氏名・電話番号・E-mailアドレスと受講希望日を記入の上、お申し込み下さい。
- 申し込み・問い合わせ先/滋賀県立大学 地域づくり教育研究センター
〒522-8533 彦根市八坂町2500 TEL 0749-28-8210 FAX 0749-28-8473
E-mail : chiiki_grp@office.usp.ac.jp
- 締 切/平成23年4月28日(木)
- その他/1回からの申し込みも受け付けます。全5回のうち4回以上受講された方に修了証をお渡しいたします。

※申込の際にお伺いした個人情報については、当センター事業の案内以外の目的で使用することはありません。



平成23年度 滋賀県立大学春期公開講座

第2時限 日 時：5月21日（土） 13：30～15：20

場 所：滋賀県立大学講義室 A2-202

講 師：滋賀県立大学人間文化学部教授 道明 美保子

「自然の色と染め」

草木、咲く花、実る果実など自然界はいろいろな色で彩られています。

人類の歴史で天然色素の使用が始まったのは、自然に対する祈りとお呪いのために住居の壁や身体に色を塗りつけたことからとされています。その後、彩色する対象も拡大していきました。そこでまず、天然色素利用の始まり、彩色の歴史についてお話しするとともに、いくつかの代表的な天然色素による染色方法を紹介いたします。

1856年、イギリスのパーキンによって染料の化学的な合成が始まり、その後急速に発展し、20世紀以降、天然染料は合成染料にその座を奪われてしまいました。しかし、近年、環境と安全に対する意識の深化に伴って、商品の付加価値を高める方法として天然色素を用いた染色に強い関心が持たれています。

天然色素を用いた古来の染色方法は染料植物からの色素の抽出が煩雑であるうえに色素の利用効率が悪いこともあって高コストとなり、そのうえセルロース系繊維に対して濃色が得難いなどの問題もあるため、一定以上の普及が困難でした。そこで、これらの背景を打破して天然色素による染色を合成染料と同様なシステムで行う方法を検討しましたので紹介いたします。

身近な自然の色に目を向けて見ましょう。

目に映る自然の移ろいを身近に引き寄せて装ってみませんか。